

# ほとけの 混和会だより

平成二十六年七月  
東光院  
仏の混和会  
第105号



### 不滅の法燈

比叡山延暦寺の中心となる根本中堂には、千二百年、灯され続けられている「不滅の法燈」があります。  
この法燈は、伝教大師最澄様が比叡山を、仏心「ほとけ心」を養う、人材育成の道場として開設された折に、薬師如来様をお祭りされて、その御前に灯されたもので御座います。  
最澄様は、十九歳の時、奈良の東大寺にて具足戒を受け国家公認の僧侶として一生が保証されていたのですが、当時の社会や政治、又仏教界も私利私欲に耽る人々ばかりで、そのみにくさを目の当た

## ともいきの輪

No. 4



横尾千江さんと横尾ユキさん

「人生は、お陰様」  
私達は決して一人では生きられないですね。様々な人々のお陰で今があるんですね。  
この年になって漸く「ありがたう御座いました」と手を合わせる心境になってまいりました。  
私が東光院住職として拜命を頂いたのが、昭和五十八年、先代住職は昭和五十四年に亡くなり、毎日一人暮らし、アルバイトの収入を入れても月数万円程度まだ三十歳の私は、今後この寺でどのように生きて行ったら良いのだろうか、檀信徒の皆様が出来るのだろうかと思案の毎日でした。しかし御仏の慈愛心は、檀信徒



### 「根本中堂に灯される法燈」

この燈は、一度、信長の焼き討ちの時に消えましたが、三代將軍家光の命により、焼失した一乗止観院を再建し名前を根本中堂と改められました。

りにし、具足戒を受けた翌年に奈良を捨て、人里離れた比叡山の奥に一人籠もられて、一乗止観院と言う小さな庵を建て、一刀礼拝しながらお薬師様を刻まれたので御座います。そのお薬師様に灯明を灯されて「あきらめなく、後のちの仏のみせまでも、光り伝えよ法りのともしび」とお詠みに成られました。  
幾久しくこのともしびが人々の拠り所となり、御仏の教えがいつの世までも光り輝きますようにと、御祈念されたのであります。

その後、比叡山は国家公認の菩薩僧養成の道場として認められ、日蓮宗の日蓮様、禅宗の道元様や栄西様、更に、お念仏の教えを広められた法然様や親鸞様、時宗の一遍様など沢山の高僧が比叡山で出家得度されて一宗一派が開かれて行きました。よって比叡山は日本仏教の母山と称せられております。

の皆様の心の中に無意識のうちに伝わっていたのです。  
お盆や年始参りなどで、御檀家様宅にお参りさせて頂くと、「先代住職は、ご飯を食べて行ったから、貴方も食べて行きなさい」とか、先代は内のお風呂に入っていたから貴方も入って行きなさい」などと声をかけて頂きました。  
その中でも、すでに故人と成ってしまいましたが山崎文子さんには毎日、朝昼晩と食事を用意して下さり、お風呂は一番風呂で晩酌付きと、至れり尽くせりのおもてなしを頂きました。  
一人暮らしで収入が無くとも、困ることは何も無かったです。寺の行事に關しても、横尾千江さん、又横尾ユキさんには、私の住職就任以来、御詠歌や写経等で、実に三十年以上もお世話に成って参りました。  
又横尾ユキさんのご主人さんで、横尾文雄さんには、自衛隊勤務退職の後、寺の総代として十数年勤めて頂きました。寺の行事にはカメラを片手に皆さんをご指導頂いたり、比叡山参拝の時などは司会進行を行って率行的に行って下さいました。今があるのは、みんな皆さんのお陰です。深く感謝申し上げます。



昭和60年当時

そして、山形の立石寺に分燈して有った燈を比叡山の根本中堂に移し、依頼消すこと無く灯され続けているのであります。

## 一隅を照らす

お釈迦様は、私達が、この世、又来世に於いても、歩む方向性を見失わないように、又生きる事の指針となるように「自灯明、法燈」とお説き下さいました。  
最澄様は、その釈尊の意思を受け継ぎ灯明を灯されたのです。そして比叡山で修行する者の、心構えとして「山家学生式」と言う書物を記されました。その中に「一隅を照らす」と言う言葉が記されております。

修行によって得た己の仏心、この慈愛心を持って、自ら灯明と成り他の人々を照らし見守りなさい。己一人が輝き世間の脚光を浴びようと思わず、他の人々と共に輝けるよう勤めなさい。  
一人一人の燈はわずかでも、共に照らし合えば大きな燈となつて、真の幸と大きな悟りが得られることでしょう。などと御仏の道、私達の歩む方向性を示して下さいました。  
一人では、真の幸は得られませんが、共に他の幸を念じ、他の幸を喜びとする環境にこそ、真の安心が得られます。共に一隅を照らし合える環境を築いて参りたいと合掌

## ありがとうございます 御座いました



七月十四日  
山崎井戸工業様のご奉仕により、東光院の井戸を掘って頂きました。誠にありがとうございました。御座いました。



心より御礼申し上げます。  
以前の東光院の井戸は、水質が悪く水垢が水中ポンプにこびりつき、年に二回ほど、ポンプのクリーニングをしなければ成りませんでした。  
ポンプの掃除は大変な作業で、水道管を切断して地下数十メートルの水の中ポンプを引き上げて、新しいポンプに交換します。  
そして古いポンプは全て分解し、細かなファンにこびりついた水垢を竹べらで、数日かけて掃除しなければ成りませんでした。  
そこで、意を決して井戸を掘り直す事としたのです。  
その旨を山崎井戸工業さんに相談したところ、快く「ご奉仕いたします」と言って下さいました。誠に有り難い事と存じます。  
それにも増して嬉しかったのは、社長の山崎一夫さん、又御子息の秀一さんのきびきびとした動きと、心地よい挨拶でした。  
大変気持ちの良いものでした。  
山崎井戸工業さんは、大変多忙の日々を送っているとの事でしたが、その人柄が自然に人々を引き寄せているように思われます。ご繁栄をお祈り申し上げます。

## 盂蘭盆法要のご案内 8月16日（土曜） 午前11時より

身を慎み、亡き人の冥福を祈り、感謝の念を捧げましょう。  
又、他の幸を願い、他を思いやる。己の徳を仏様に献じて見ましょう。  
皆様のお参り、お待ち申し上げます。

## 施餓鬼法要のご案内 8月22日（金曜） 午後2時より

真心を、ご先祖様にお供えし、善因の功德を巡らしましょう。  
特に新盆の御家族様や御親族様は、この日にお参り下さい。  
お塔婆のお申し込みは下記まで  
電話 0476-46-2471  
FAX 0476-46-2545

## お盆参りの ご案内

様宅には 日 曜日  
午前、午後 時 分頃 お参りさせていただきます。

もし不都合が御座いましたなら、早めに連絡頂けますようお願い申し上げます。

お問い合わせは、東光院までお願いします。  
電話 0476-46-2471  
FAX 0476-46-2545